

和の伝統は 僕が守ります!



2010.10.15訪問

青年部員としての
仕事にまつたて
きましました

第二十二回 大野製畳さん

今回は、次代の青年部を担うエースであり自称「体育会系の縦社会を重んじる男」大野安律さんが専務を務める大野製畳(株)さんの羽島工場にお伺いさせていただきました。
(文・広江一昭)

明治20年、笠松上本町で大野畳店として創業された老舗企業です。その後、昭和30年に現在地の大池町に大野製畳株式会社を設立。平成7年には羽島市正木町に工場を新築されました。大野さんの祖父に当たる2代目のお名前は、大野 固(かたむ)さんとおっしゃり、その名前が示すような非常に堅実に真面目に商売されてきた結果が今の大野製畳さんの繁栄につながっていること強く感じた取材でした。

「モノづくり」の心を伝える

●うれしいと思うことは何ですか？

仕事が完了した後、お客様には「品質向上アンケート」をお渡ししています。満足度や気付いた点を記入していただくのですが、仕事内容や対応などに満足いただき、褒めていただけると非常にうれしいですね。

●一方、ツライと感じることは何ですか？

やはり、こういった仕事にクレームはつきものなので、その対応には苦労することもあります。施主様からすると、「一生に一度あるかないかの家の普請ですので、できる限りの対応をと思っています」。

また、建築業者さんを通して仕事をすることも多く、畳の問題だけではない建築全般に関わるようなクレームでも、元請けさんに迷惑がかかることがないように非常に気を使って対応しています。

●普段気を付けていることは？

従業員も含めて、いつも笑顔で仕事ができる環境を心がけています。みんなが楽しく仕事ができる職場でないと、決して良い仕事はできませんから。

また、お客様の依頼には、「NO」とは言いません。そして迅速に対応し、お客さんに喜んで頂けるように努力しております。

●現在の業界が置かれている状況は？

現在畳のある部屋は一軒に一部屋あるかないかの状況で、畳の製作は一昔前に比べておよそ3分の1になるほど離れが進んでいます。そのような中、当社では10年ほど前、業界ではほとんど取得されていなかった「ISO9002」を認証取得して、さらなる品質向上を目指し、お客様の信頼をより得るために日々努力しています。



●改めて「畳」という商品の良さを教えてください

家族団らんの場としてだけでなく、梅雨時の湿気を吸収したり、乾燥時には適度な水分を放出したりと吸湿・防湿作用に優れています。

また、畳に使われているイ草の香りには集中力をよささせる効果があり、畳の部屋で勉強をすると学力が向上するといわれています。

●これからの事業展開について教えてください

昔から日本の暮らしに畳は欠かせないものでした。その畳の素晴らしさをアピールしていき、伝統を大切にしながらも時代のニーズに合った商品を提供していきたいと思えます。また畳は、ふすまやクロス、カーテン、絨毯といったインテリアと一体のものであり、仕事で得た信用からお客様にそれらの仕事の紹介を当社に依頼されることも多くあります。今後はそういったインテリア全般も自社で行い、さらには家のリフォームまで行えるよう事業展開していきたいと考えています。



訪問してみて

残念ながら工場での作業は終了していましたが、その光景は見ることはできませんでしたが、畳床を流すとパソコンで取り込んだ図面通りに畳が出来上がるという立派な機械設備が整っていました。

また、新築であっても、部屋には微妙にひずみがあるそうので、ひと部屋ひと部屋、ひずみに合わせて畳を作らなければならないそうです。自社工場で迅速に対応できる大野製畳さんは、このあたりでもお客様の信頼を得るための強みを持っておられるようです。

ちょっといい話

お客様の要望には必ず応えるのが信念の大野さん。以前、寝たきりの方から「リクフライングの介護ベッドでは寝られないので、マットを畳に変えてくれ」と頼まれたそうです。そのようなものは今までなく困ったそうですが、なんとか工夫してそれを作り上げ大変喜ばれたそうです。

普段の行いからはあまり感じられない大野さんの優しい一面を垣間見ることができ、キャラとは違うのでボツにしようか迷いましたが、思い直して掲載させていただきました。